

## 日やけ止めの長期連用試験により 日光角化症患者の病状進行に対する有用性を実証

株式会社コーセー(本社:東京都中央区、代表取締役社長:小林 一俊)は、和歌山県立医科大学皮膚科(所在:和歌山市、古川福実教授)との共同研究により、日光角化症(Actinic keratosis; AK)患者が日やけ止めを長期間連用することで、皮膚がんの前駆症である日光角化症の進行を阻止する効果を見出しました。また、日やけ止めの連用により皮膚の光老化の進行を抑制する傾向が示されました。

本研究は、5月30日～6月1日に開催される第113回 日本皮膚科学会総会(京都市左京区、国立京都国際会館)、および6月5日～6日 第39回 日本化粧品学会(東京都千代田区、有楽町朝日ホール)にて発表の予定です。

### <日光角化症とは>

紫外線は短期的には皮膚の日やけを引き起こし、長期的にはシミやシワなどの光老化の原因になることが知られていますが、皮膚科領域においても様々な疾患の原因となっていることが明らかになっています。

### 日光角化症の症例



日光角化症は、日光(紫外線)を長年浴び続けたことにより引き起こされる皮膚の疾患です。スキンタイプ(日やけのし易さ)、生活圏(緯度の高さ)なども影響しますが、高齢者になるほど生じやすく、特に仕事やレジャーなどで日に焼ける機会の多い方ほど発症しやすいといわれています。部位としては、顔や頭部など多くの紫外線を浴びやすい部位に現れることが多く、その他、手の甲などにも発症します。皮膚表面が赤くカサカサしたり、かさぶた状になったり、硬いイボの様になりますが、通常、痛みなどの自覚症状はありません。

日光角化症は、有棘細胞がん(皮膚がんの一種)の前段階あるいは初期症状として位置づけられており、放置すると悪性の皮膚がんに進化する可能性があります。日本における推定罹患率は0.1～0.12%程度(100～120人/10万人/年)で、近年増加傾向にあるといわれています。その予防には、紫外線防御が最も有効とされています。

### <有用性試験方法について>

皮膚科医による管理指導の下、日光角化症患者 13 名(開始時の平均年齢 79.4 歳)に日やけ止め(SPF30、PA+++)の 18 ヶ月間の連用試験を実施しました。使用試験開始時および 6、12、18 ヶ月経過時に、皮膚科専門医により顔面の皮膚症状の診察や日光角化症の個数の確認、ならびに皮膚水分量・経皮水分喪失量・皮脂量・シミとシワの数について機器測定を行いました。また、使用開始時と 18 ヶ月経過時には病変部位の皮膚生検を行い、病理組織学的な確定診断を行いました。なお、この試験につきましては和歌山県立医科大学倫理委員会による審査ならびに承認を得ています。

### <日光角化症患者への日やけ止めの有効性を確認>

使用開始時と比べ 18 ヶ月経過時の診察では、皮膚が硬くカサカサしたり、赤くなっていた病変部の症状は軽快する傾向にあり、病理組織学的解析からも日光角化症の症状が悪化した患者がいないことが確認されました。また、病変の数についても有意な変化は認められず、日光角化症の新生も抑制されていると考えられました。以上のことは、日本人において、日やけ止めの継続使用が露光部の日光角化症の増加や有棘細胞癌への進展を予防する効果があることを示しており、日光角化症に対する日やけ止めの有用性を示唆するものです。

病変部以外の健常な皮膚においても、水分量など肌状態が一部改善し、シミやシワなどの光老化症状の抑制効果が確認されました。また、病理組織学的にも、真皮の日光変性の変化は見られず、日やけ止めの長期使用が皮膚の光老化症状の進行も抑制すると考えられました。なお、本試験は使用期間 3 年となるまで継続実施する予定です。

### <コーセーの考え方>

今回得られた日光角化症の進行阻止に対する日やけ止めの連用効果に関する知見を、今後の商品開発に活かしていきます。また、健康を保つための予防医学の観点から、日やけ止めの使用による紫外線防御の重要性について広く啓発していく考えです。

当社は新たな事業領域への取り組みとして、『医療(美容医療)分野との関係深化』を掲げ、『化粧品の有効性実証』、『QOL(Quality of Life)向上』、『健康科学』の視点からの様々な研究開発テーマに取り組んでいます。これまで、新規開発の UVA 防御能の高い日やけ止め化粧料が光線過敏症患者の発症予防に有効であることの確認や、レーザーによるシミ除去治療のアフターケアにおけるコウジ酸配合製剤の有効性確認などの研究成果を得ています。

コーセーでは美容医療と化粧品はそれぞれの有用性を生かし、組み合わせることで、より高い次元でニーズに応えることが可能になると考えています。今後も生活者の更なるベネフィットを追求するために、美容医療と化粧品の融合の可能性を探る様々な研究・開発を行ってまいります。